

令和3年度 第8回 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議  
《議事概要》

開催日 : 令和3年12月23日(木)

開催時間 : 開会 午前10時00分 閉会 午前12時00分

開催場所 : 水道部庁舎3階会議室 + Web

出席者

	氏名	現職等	備考
有識者	岸井 隆幸	日本大学 特任教授	座長
	森本 章倫	早稲田大学 教授	
	小泉 秀樹	東京大学 教授	Web参加
	福井 恒明	法政大学 教授	欠席
市民	佐藤 清治	沼津市自治会連合会(第一) 会長	
	高田 利昭	沼津市自治会連合会(第五東) 副会長	
	土屋 豊	沼津市自治会連合会(第五開北) 会長	
	栗田 奈穂子	沼津市都市計画審議会 委員	欠席
商工事業者	芦川 勝年	沼津市商店街連盟 会長	
	杉山 金芳	沼津商工会議所 専務理事	
	曾根原 容子	沼津商工会議所 女性会 会長	
交通事業者	大道 潤	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 副長	代理出席
	川井 俊人	富士急シティバス株式会社 所長	代理出席
	鈴木 智善	平和タクシー株式会社 代表取締役	
行政機関等	秋山 清人	静岡県 沼津警察署 交通第一課 交通規制係 係長	代理出席
	平野 隆広	静岡県 交通基盤部 都市局 都市計画課 課長代理	代理出席
	池ヶ谷 規文	静岡県 沼津土木事務所 所長	
	南木 宏和	独立行政法人 都市再生機構 中部支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 担当部長兼室長	
	高峯 聡一郎	沼津市 副市長	欠席
	佐藤 雅史	沼津市 まちづくり統括監	
	真野 正実	沼津市 都市計画部 部長	
	平野 明文	沼津市 沼津駅周辺整備部 部長	
	湯川 真由美	沼津市 産業振興部 部長	
	村上 浩昭	沼津市 建設部 部長	
オブザーバー	角田 陽介	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官	
	武田 正昭	国土交通省 中部地方整備局 建政部 都市整備課 課長	欠席

## <次 第>

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 事務局からの説明
  - (1) 「公共空間再編整備計画」、「都市空間デザインガイドライン」策定の背景及び構成
  - (2) 両計画に基づくまちづくりの進め方
  - (3) 本日の検討・確認事項
  - (4) 今後のスケジュール
- 4 意見交換
- 5 閉会

## <議事概要>

**岸井氏**                   本日ご欠席の福井委員からのご意見等を予め受けていれば、事務局より先に紹介をお願いしたい。

**事務局**                   福井委員からのご意見を紹介させていただく。資料 2 の P.49 に、まちづくりシナリオと各取組の進め方が記載されている。STEP 1-2 で(都)沼津駅沼津港線の東側に歩行者動線が副次的に生まれることを点線で表現しているが、仲見世商店街からの賑わいのにじみ出し等を考えるのであれば、(都)沼津駅沼津港線の西側に点線を表記した方が良いのではないかといったご意見があった。また、中央公園や仲見世商店街との繋がりが生まれ、(都)沼津駅沼津港線を車で通行する人々からも、まちづくりの動きがわかるようになると良いというご意見があった。いただいたご意見に対する事務局の対応としては、副次的な動線の表記を(都)沼津駅沼津港線の西側に修正することを考えている。また、仲見世商店街周辺で商業者の方々と実験的な取組を実施する際に、(都)沼津駅沼津港線の西側で現在実施されているまちなか居住促進に関する取組等と連携しながら、車で通行する人にも動きを見せることを意識しつつ検討を進めていければと思う。

また、資料 2 P.52 に「社会実験等を契機に広く市民の参画を募り、組織的な取組につなげていく」ということが記載されているが、そのためには、今後積極的にまちづくりの取組や動きを広く市民に伝えていく必要があり、まちなかデザイン会議等の場での市民啓発だけでなく、「情報発信」の文言も追記し、会議を Web 中継する等、市民参加のハードルを下げられるような工夫を考えてほしいといったご意見があった。事務局の対応としては、「情報発信」の文言を計画内に追記し、市民のまちづくりへの参画に繋がるような情報発信を行うよう努めていきたいと考えている。

**岸井氏**                   パブリックコメントを令和 4 年 2 月・3 月頃に予定している。本日は、パブリックコメントに向けた準備として、各委員よりご意見をいただければと思う。

**森本氏**                   全体としてわかりやすく、充実した内容となっている印象である。  
追加すべき視点としては、情報発信が挙げられる。市民に向けた PR を是非行ってほし

と思う。色々な PR 方法が考えられるが、皆で共有するまちづくりのキャッチフレーズやスローガンを作るという方法もあると思う。

資料 2 P.23 と P.54 で共に「STEP」という言葉を使用すると、読み手側は混乱する可能性があるため、段階を表す言葉を使い分けると良いと思う。例えば、「プラウド沼津」という言葉が普段使われているのであれば、P.23 シナリオ部分（まちづくりの方針を示す部分）においては、「プラウド 1.0：色々なことを生み出す（点）」、「プラウド 2.0：色々なことをつなげる（線）」、「プラウド 3.0：広げる（面）」といったように大きな概念を示すキャッチフレーズをつくり、PR しながら進めていけると良いのではないかと。

これからのまちづくりは、サイバー空間を含めて、総合的な戦略を持って取り組むべきであると考えている。公共空間やまちなみを綺麗にすることだけではなく、医療や福祉等を含めた大きな概念として捉えてもらうことで、スマートシティとの親和性が高まってくると思う。スマートシティは、まちづくりだけではなく都市の問題の解決を行うことも意味している。そのため、まちづくりの大きな方針を示すシナリオ部分では、大きく構えて考えてもらえれば良いと思う。

小泉氏

公共空間再編整備計画・都市空間デザインガイドライン共に非常に充実した計画となっているため、これらを策定し、公式なものとした際には、実際の空間整備へつなげてほしい。

資料 2 P.52 では、公共空間再編整備に基づく取組の進め方がコンパクトに上手くまとめられている。計画に盛り込んでほしいという強い意向ではないが、官民連携した社会実験に参加する人を発見し、協力してもらう体制づくりや、計画の策定段階だけではなく、計画を実践する中で市民（主体）を巻き込んでいくためのアプローチを明確にするための実施計画・シナリオを考えながら取り組んでいく必要がある、ということが強調されてもよいと思う。計画に書き込まない場合でも、宿題として、引き続き検討していただきたい。豊田市や岡崎市で、社会実験とコミュニティ形成を組み合わせたような良い取り組みも生まれてきているので、参考にしながら検討してほしい。沼津市は、市民参加の機運が高い地域であると思うので、そのような方々と協力しながら、進め方の部分を練り上げてほしい。

資料 2 P.53 では、「公共空間再編整備と連携した STEP による計画的・戦略的なアプローチ」という記載があるが、P.54・55 になると、個々の商店主にどのように働きかけるかという表現になっている。デザインガイドラインなので、もちろんそのような性質もあるが、建築主・事業者が個別に取組を行い、広がっていくということよりも、社会実験等を通じて、あるエリアで集団による取組を行い、集合的な効果を実感することで、みんなが前向きになるというプロセスの方が多いように感じる。コレクティブな、社会実験的なアプローチによってマネジメントまでつなげていくようなストーリーがデザインガイドラインにおいても、もう少し強調されても良いと思う。

資料 2 の p.56 にまちなかの「空間を測る 9 つの指標」が示されており、上手く整理さ

れていると思う。どの空間で何を行うかということについては、様々な可能性があり得ると思う。例えば、シンボルロードにおいても時や場所を限れば、遊びや運動ができるかもしれない。表中の「●」は現段階の仮説として整理し、実際にどのような機能がどの場所に適するのか、社会実験をやりながら確認するということもあると思う。

岸井氏  
事務局

いただいたご意見に対して、事務局からのコメントはあるか。

森本委員からのご指摘に関して、まちづくりシナリオの STEP はご指摘の通り、大きな方向性を示すものであるため、市民と共有してまちづくりを進めていくうえでは、スローガンのようなものがあると良いかもしれない。「STEP」という言葉の使い分けと併せて、検討させていただく。

小泉委員からのご指摘に関して、実際にプレイヤーをどのように巻き込みながら進めていくのかということについては、本市でも課題であると考えている。これから具体的に動かしていかなくてはならない中で、進め方については検討していくが、本日の出席者・傍聴者の皆さんにも前向きに協力いただければ幸いである。

資料 2 の p.56 における「●」の記載は、都市機能 WG において、9 つの項目をすべてやるということでは負担になってしまうので、空間タイプごとに重点的に実施すべきものを整理できると良いという意見をいただいたことから、仮説的に「●」をつけている。このことから、ご指摘の通り、シンボルロードで、遊びや運動といった機会の創出を妨げるものではないと考えている。

岸井氏  
池ヶ谷氏

その他、各委員よりコメントはあるか。

道路管理者として、あるいはまちづくりの観点からコメントさせていただく。

段階的・シナリオ・地域連携といった事柄が示されている中で、バックキャストिंगの考えを初めに押さえておく必要があると思う。南口駅前広場の再整備に向けた社会実験が STEP 2 で示されているが、再整備では駅前広場内に一般車車両のアクセスができなくなることを市民へ早めに周知し、社会実験も可能な限り早期に実施できるとよい。

(都)沼津駅沼津港線や(都)三枚橋錦町線の車道部幅員を狭めて歩道幅員を拡げる取組は、先進的でありトップランナー的な取組であるため、静岡県も道路管理者として協力していくが、実現に向けては、地域一丸となってバックアップいただけるよう皆様にはお願いしたい。

沼津市のまちづくりにおいて、沼津港は無視できないと考える。近年、沼津港はとても賑わっており、令和 5 年には Sea 級グルメ全国大会といったイベントの開催が予定されている。その中で、沼津港を訪れる人々を中心市街地へ誘導する仕組みを考えると良いのではないかと。静岡県としては、長期的には、(都)沼津駅沼津港線に自転車通行帯の整備を計画しているため、実現に向けてご協力いただけるとありがたい。

岸井氏

道路を管理している立場からすると、多くの方々からの賛同を得ている状況でないと規制を強化することやルールを変えることも難しくなるため、早め早めに取り組を行うようにというお話であったと思う。沼津駅と沼津港間では、これまでも自動運転バスの交

通実験の取組等が行われているので、もう一段何かを考えていければ良いと思う。

事務局

公共空間再編整備計画素案(資料3 P.33)に沼津版スマートシティ「X-Tech NUMAZU」の記載をしている。その中で、移動手段の情報提供を一元化することや、静岡県と連携した自動運転の実装化に関して触れている。

この中で、例えば、沼津港の駐車場の混雑状況に鑑み、中心市街地周辺に自動車を止め、そこから二次交通となるマイクロモビリティやEVバス等で楽しみながら沼津駅ー沼津港間を移動できるようにするなど、モビリティ関係の施策の検討も進めていきたいと考えている。また、観光部局とも連携しながら、中心市街地に誘客を繋げる施策も必要と考えている。

南木氏

資料2 P.42 デザイン誘導指針の中で、BEFORE、AFTERの絵が描かれており、通りのイメージとして非常に良い表現になっていると思うが、建物用途によって地先の使い方も異なると思われるため、個々人に参加・イメージしてもらいやすいよう、個の用途も意識した例示ができると思う。建物内の賑わいがにじみ出されていないといった課題が挙げられていたが、にじみ出せるところとにじみ出せない業種があると思うため、まずは地先の使い分けをイメージしてみてはどうかと思った。

高田氏

地域の盛り上がりが重要であることは認識しているのだが、沼津駅周辺総合整備事業は非常に長い期間を要するため、冷めてしまっている地域住民もいるような状況である。その中で、良いまちのイメージ像をどのように地域へ浸透させていくかが大事であると思う。社会実験は、地域の人達に市民参加のきっかけを作る手段になり得るが、更に地域活動の中に市民をどんどん巻き込み、それをきっかけに広げていくことも重要である。地域組織と連携した上で地域住民へのPRを進め、行政として支援しながら、地域活動が広がっていくような仕組みができていくと良い。

岸井氏

沼津市では、まちづくりの市民活動をサポートするような組織があるのか。

事務局

企画部地域自治課において実施している「民間支援まちづくりファンド事業」では、民間が主体となったまちづくり活動等を支援しており、小泉委員にはアドバイザーとして参加いただいている。このような取組を継続して行ってきたことで、近年、市民主体の取組が増えてきている。

この他にも、まちづくり政策課ではリノベーションに対する支援、商工振興課では商業者に対する支援を行うなど、それぞれの観点で支援は進めているが、市民の活動をまちなかへ活かしていくためにも、各部局が連携し、市が一体となって進めていきたい。

岸井氏

各部局で工夫されている支援と、再編整備に関する取組が連携しながら、上手く回していけると良いと思う。そのためには、先ほどご指摘があったように、イメージパースの中で商業を営む方にとってはどんなことができるのか、そうではない方々にとっては何ができるのかといったことを具体的に描くとより親切であると思う。

曽根原氏

様々な人が一生懸命まちづくりに取り組んでいると感じるが、市が沼津駅周辺で進めようとしているまちづくりの方向性まで理解して取り組んでいるわけではないと思う。

市は市民に今後のまちづくりの展開を時系列で示し理解してもらった上で、自分たち（市民）がやろうとしている取組がまちづくりのどの部分に該当するのかを考え理解してもらい必要があると思う。沼津のまちを真剣に考えている人は多いので、市が考えるまちづくりの方向性をしっかりと示し、自分の取組がまちづくりへどのようにつながるのかを考えられるようにした方が良いと感じた。

岸井氏 今回 2 つの WG で議論した内容の成果を合わせて説明したが、このような説明がないと市民の皆様には理解いただくのは難しいと思われる。個々に説明すると、公共空間が将来的にどうなるかが分からないまま、デザインガイドラインで示されるような取組を促されるようになってしまう。パブリックコメントを行う際には、2 つの計画の関係性がわかるようなものを示すのか。

事務局 パブリックコメントの実施や計画の周知・情報発信にあたっては、両計画が一体であるということが分かるように示していきたいと考えている。

岸井氏 両計画それぞれのパートがどのように重なっていくのかを示したロードマップのような簡単なものを用意すると良いと思う。そもそも計画全体で何を目的としているのかを理解してもらい、関心を持ってもらい、更に自分ができることは何なのかを考えていただけるように工夫することで分かりやすくなると思う。

曾根原氏 例えば、民間支援まちづくりファンド事業の申し込みをする人達を対象に、このようなことを目標にしてほしいということを伝えるセミナーをやるのも良いかもしれない。自分たちのやろうとしていることがまちづくりの中のどの部分につながるのかが理解されることで、今年度やりたいということだけでなく、今後の継続や連携につながると思う。

岸井氏 曾根原委員からのご意見は、市民参加に向けた実施計画の具体的なアイデアの 1 つになると思う。

大道氏 駅前広場の重要な機能は、鉄道から自転車、自動車、バス、タクシー等の多様な交通モードに円滑に乗換えができることであり、今後パーソナルモビリティや自動運転等の新たなモビリティが普及していくことを踏まえると、拡張性や柔軟性を持たせることが重要だと考える。公共空間再編整備計画とデザインガイドラインを連携しながら進めていく中で、社会実験等を踏まえてまちの使われ方の変化を捉え、限られた駅前広場の空間ではあるが、まちにとって必要なモビリティの配置と機能を各 STEP で柔軟に見直しながら進めてもらえると良い。

岸井氏 各 STEP で検証したり、その時点での新しいアイデアを入れたりすることが必要というご意見であったと思う。具体的に進めていく方法については、交通事業者等を交え、社会実験の成果をどのように評価するのかということも踏まえて、段階的に検討してもらえればと思う。

角田氏 国土交通省では、ウォークブルなまちづくりを推進しており、皆様と一緒に考えていきながら財政的な支援等で協力できればと思う。

資料 2 の P.5 に短期・中期・長期の取組イメージが示されており、沼津駅の北口が表現されているが、P.45 以降になると北口が表現されていない。短期は自由通路等により南北が繋がっていない段階であるため、南側に記述の重心があることは自然であるが、中長期においては、自由通路を通じて南北が繋がり、人の流れも大きく変わるので、南北の繋がりも意識すると良いのではないかと。

資料 2 P.49 のまちづくりシナリオ STEP1-2 において、南に延びる歩行者動線の先に中央公園があるが、中央公園等について特に記載がない点が気になった。目的地化していないと動線の行先として弱いのではないかと思う。中央公園やあゆみ橋等の活用方法が検討されており、今のままでも目的地化されているのか、何か改善する意向があるのか教えていただきたい。

資料 2 P.55 のデザインガイドラインに基づく取組の進め方を見ると、事業者がやってみたいと思ったところに、沼津市が手続き等を支援するという記載がされている。社会実験以外の場面で、事業者が道路を用いた取組を行いたい場合、道路使用・占用許可の申請等は誰が行うのか。市もしくは、まちづくり団体等が支援し、関係機関との協議等で、取組意欲のある事業者の心が折れないようにサポートしてほしい。

岸井氏  
事務局

中央公園の在り方等については何か考えているのか。

中央公園については再編整備に向けた検討を別の部署で進めているところである。実際に利活用している人の意見やまちづくり戦略の動き等を踏まえながら検討を行っており、連携しながら進めていければと思う。

行政側からの支援は、社会実験以外の場面でも行っていく。現在でもリノベーション部門でのワンストップ型の支援や、道路占用に係る支援等を行っているので、引き続き事業者が活動しやすいようなサポートを検討していく。

岸井氏

中央公園の動きがあるのであれば、計画内に記載できると良いだろう。

社会実験の成果を継続的に活用することも重要であると思う。他の事例としては、街路に面した駐車場を行政が借り上げ、そこに事業者に出店してもらうような取組や、空き家・空き地を商店街の方々に利用してもらうような取組も見られる。取組が上手く連鎖していくことで、皆様のエネルギーの火も消えにくくなるため、是非このような工夫を考えてほしい。

芦川氏

両計画はわかりやすくなっており、データも取るべきところを押さえており、良いと思う。個人的にはまちづくり戦略も地域のエリアに浸透してきたように感じている。エリアの人たちは、商店街、駅前広場、社会実験を予定しているイーラ de 前等、個々の環境よりも、交通関係のことを気にしている。自分達が置かれている日常が変化していく中で、従来は商店街の中にタクシーの乗降場や待機場等が必要だという考えもあったが、最近ではまちの中にタクシーを呼んでほしいと言われることが増えており、来街者やまちを使う方々のニーズも変化しているようである。

資料 3 P.6~7 において、車での来訪者の滞留が少ないことが示されている。自動車社

会の中で滞留が少ないと、店舗を認知してもらえないということにもつながるので、大きな問題であると思う。データを基に可視化いただいたことに感謝しており、今回の資料を地域や商店街の人々に共有したい。

佐藤氏

地域コミュニティ自体が徐々に高齢化し、若い方々が少なくなっており、行事やイベントが開催できなくなっている。賑わいが増し、若い人が来ることで、コミュニティにも活気が出て、人口も増えることが期待できるため、この計画が早く実現することを望んでいる。

地域住民は地震を最も懸念している。地震が発生した際の駅周辺の買い物客（帰宅困難者）の避難所についても検討されると良い。第一地区ではキャパシティが少なく、地元住民優先になってしまうので、駅前広場や中央公園等も含めて考えていただければと思う。

森本氏

まちづくりの成果の可視化・わかりやすさは非常に重要であるため、両計画にポンチ絵やイラストが多く使用されている点が良いと感じる。利害関係があるという意見もあるが、イメージパースはどんどん作り、活用し、市民と対話を進めてほしい。宇都宮市では、スーパースマートシティを市民に伝えるために、市民の生活がどのように変わるのかを漫画にして、広報誌に掲載した。文字では伝わりにくいが、画像は見た瞬間にわかるので、このような事例も参考にしながら、わかりやすさを追求していくと良い。

沼津港との関係は重要であると感じた。沼津駅―沼津港間の自動運転バスについては、ぜひやっていただきたい。交通を変えれば、人の流れも変わってくるので、中心市街地に人を呼び込むのに一番良い方法ではないかと思う。官民 ITS（Intelligent Transport Systems：高度道路交通システム）のロードマップでは、2025年までに限定領域において運転自動化レベル4を目指している。国土交通省で、どこを限定領域にするのかの議論が始まっているので、是非、(都)沼津駅沼津港線を対象エリアとして手を挙げ、どんどん社会実験を行うことでエリアの活性化に繋げてほしいと思う。

小泉氏

皆様からのご意見を踏まえ、より良い計画にしてほしい。

沼津港との連携については、気になっていた事柄である。やや広域な視点から見た時のこのエリアの位置づけや、市民にどのように足を延ばしてもらうのかを簡単で良いので計画内に記載すると良いと思う。

沼津市では、吉村先生と共に「X-Tech NUMAZU」において、DX（Digital Transformation）の検討を進めていると思うが、これらとも連携を図り、具体的に進めていただければと思う。色々な社会実験を実施していく中でデータコレクションもできると思うため、これらを上手く活用することで地域経営に結び付けるような発展性のある取組になれば良いと思う。

岸井氏

沼津市には高校生が沢山おり、駅前で若い方々が多く見られる。このような若い世代にもこの計画に関心を持ってもらい、参画してもらえるよう、学校との連携等についても考えていけると良い。若い方々は色々なアイデアを出してくれるだけでなく、DXや

スマートシティといった分野でもとても大きな力になる。他人事ではなく、自分事に捉えてもらうことができれば良いと思う。

本日いただいたご意見を踏まえ、修正したものを事務局と調整し、パブリックコメントに掛けさせていただく。その後、戦略会議を令和4年4月頃を開催する予定であるため、その時点で不備があればご指摘いただきたい。

以上